

社会科学学習指導案（地理的分野）

日 時 平成25年5月24日（金） 第2校時

対 象 2年3組（男子20名 女子20名 計40名）

指導者 教 諭 岩 元 光 博

1 単 元 「九州地方」

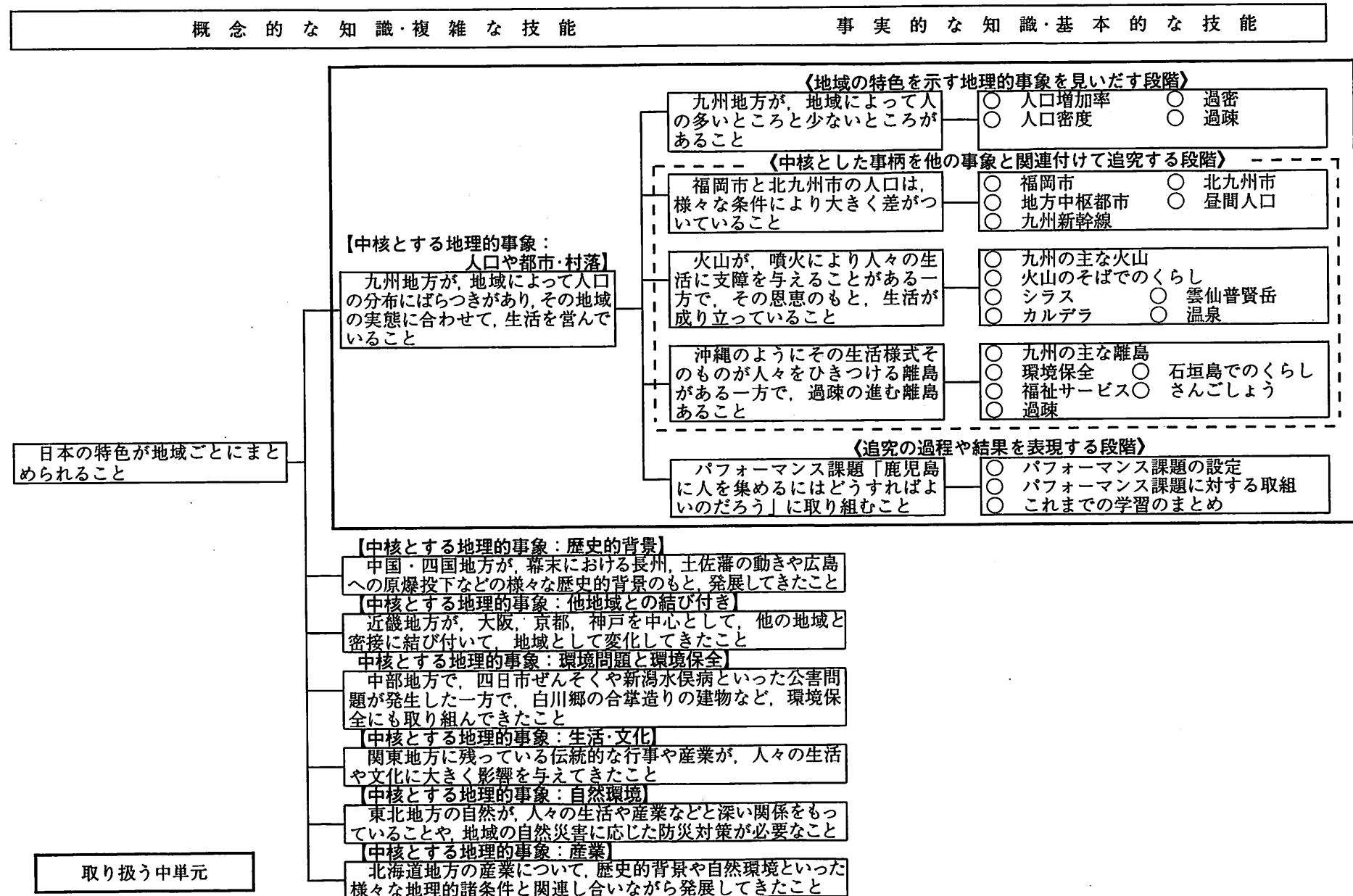
2 単元の考察

本単元は、「九州地方」について、「人口や都市・村落」を中核とした考察をする学習を通して、その地域的特色をとらえさせることをねらいとしている。九州地方は、本州、北海道地方に次いで3位の面積を占めており、その範囲も南北約1000kmと大きく広がっている。このような地理的環境が産業や交通などと深くかかわっているため、九州地方の人口分布や都市・村落の立地や機能には地域的特色が見られる。例えば、福岡市のように過密化し、都市化が進む地域がある一方、山間部や離島、火山の周辺地域では過疎化が進んでいる現状も見られることなどが挙げられる。地域的特色を理解し、その現状や将来像について考察していくことによって、過疎・過密の問題を解決していくことこそが地域の課題を解決していくことにつながるということを理解させていくことは、九州地方で生活しているわたしたちにとって大きな意義がある。

生徒は、事前アンケートによると、九州地方の都市として「福岡市」33名（83%）、「熊本市」3名、「北九州市」（2名）などを挙げていた。その理由に、「ビルが多い」10名（25%）、「人が多い」8名（20%）、「お店が多い」6名（15%）などを挙げていたが、地理的環境や人口分布、生活環境、産業、交通、情報などに着目して、関連付けて説明している生徒はほとんどいなかった。このことから、福岡市などの都市に人口が流入していることは理解できていても、都市部と周辺部の人口動態がどのようにかかわっているのか、変化しているのかについては、あまりできていないことが分かった。

指導に当たっては、「人口や都市・村落」を中核として考察していくことを踏まえ、単元初めに『九州地方には、なぜ人の多く集まる所と少ない所があるのだろうか』という追究課題を設定する。九州地方の地域的特色を的確にとらえさせるために、九州地方を「都市圏」「火山と温泉」「離島」の3つの視点で着目させ、考察させていきたい。「都市圏」の視点では、都市部への人口流入、都市圏の成立都市の発展、商業地域の形成などについて考察すること、「火山と温泉」の視点では、火山の噴火による被害と地熱の恩恵を受けた生活、防災の工夫などについて考察すること、そして、「離島」の視点では、離島の特色ある生活の様子と、過疎化に悩む離島での生活について考察することを通して、九州地方で見られる様々な地理的事象から地域的特色を見いださせたい。また、単元の最後のまとめとして、社会参画の視点を取り入れたパフォーマンス課題「鹿児島に人を集めるにはどうすればよいのだろう」に取り組ませる。その際、生徒が身に付けた知識、概念や技能をみとめるために、社会の形成に参画していくための活動につながるような表現（提案）活動を行う。このような学習を通して、実際の社会に出たときに、生徒が直面する様々な問題を、自ら解決していく力や態度をはぐくみたいと考えた。

3 単元の学習内容の構造化



4 単元の目標

- (1) 人口や都市・村落を中核として、九州地方の地的特色について関心を高めさせ、意欲的に追究させる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 九州地方の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象について、多面的・多角的に考察させ、自分の言葉で表現させる。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 人口や都市・村落に関する統計地図や都市分布図、人々の生活や産業に関する統計資料などについて読み取らせ、ワークシートにまとめさせる。(資料活用 の技能)
- (4) 九州地方の地的特色が、様々な事象と結び付き、影響を及ぼし合って成り立っていることを理解させ、その知識を身に付けさせる。(社会的事象についての知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点 (全6時間) ——— 評価 (授業中) ——— 評価 (授業後)

主な評価場面と学習内容 (基本的な知識・単純な技能)	時 間	評 価 規 準				主な言語活動の 具 体 的 場 面
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解	
追究課題の設定 九州地方の特色を読み取り、 課題を設定する場面 ○ 人口増加率 ○ 過密 ○ 人口密度 ○ 過疎	1	九州地方の人口の分布の特色から、課題を設定し、その課題を意欲的に追究し、とらえようとしている。 【観察】			九州地方の人口増加率や人口密度などの特色を理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り・解釈》 日本全国の人口分布図や都道府県の人口増加率のグラフを読み取り、日本の特色について解釈する場面
大都市圏 福岡市と北九州市との比較から、大都市圏の特色について理解する場面 ○ 福岡市 ○ 北九州市 ○ 地方中枢都市 ○ 昼間人口 ○ 九州新幹線	1		福岡市を中心とした大都市圏が形成される過程やその特色を適切に表現している。 【ノート】	福岡市と北九州の人口推移や夜間の人口比較などの統計資料から、都市圏の人口の特色をまとめたりしている。 【ノート】		《読み取り・解釈》 福岡市と北九州市の人口推移のグラフや都市圏の変化する場面
火山と温泉 火山や温泉地でのくらしを通して、生活の工夫について理解する場面 ○ 九州の主な火山 ○ シラス ○ 雲仙普賢岳 ○ カルデラ ○ 温泉	1		温泉地における観光や、火山の防災の取組について考察し、火山灰の利用した産業について、その特色を適切に表現している。 【ノート】		九州の主な火山とそこでのくらしについて、地形や気候の特色に合わせた様々な産業が行われていることを理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《説明》 別府や湯布院などの温泉地での観光客を増やすための様々な工夫について説明する場面
離島でのくらし 離島でのくらしを通して、生活の工夫について理解する場面 ○ 九州の主な離島 ○ 過疎 ○ 環境保全 ○ 石垣でのくらし ○ 福祉サービス ○ さんごしょう	1	離島での特色あるくらしや、生活の工夫に対する関心を高め、具体的な事例を基に意欲的に追究し、とらえようとしている。 【観察】	離島での特色のあるくらしや、交通・通信網による他地域との結び付き、過疎化対策について考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【ノート】			《読み取り・解釈》 石垣島が人々をひきつける理由について、様々な資料から読み取り、解釈する場面
パフォーマンス課題の設定 九州地方についての学習内容を活用して、パフォーマンス課題に取り組む場面 ○ パフォーマンス課題の設定 ○ パフォーマンス課題に対する取組 ○ これまでの学習のまとめ	2 (本時)		九州地方の人口や都市・村落と、人々の生活や産業に関する様々な資料を基に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【ワークシート】	九州地方の人口や都市・村落や、人々の生活や産業について、様々な資料から読み取ったり、まとめたりしている。 【ワークシート】		《論述》 鹿児島に人を集めるための方法について、優先順位を付けて、自分の意見をまとめる場面
全5時間における各評価観点の配当時数		1 + ①	2 + ②	1 + ①	1 + ①	○数字は、授業後に行う評価の回数を表す

6 本時の実際（6／6）

(1) 主題 「鹿児島に人を集めるにはどうすればよいのだろう」

(2) 主題の考察

本単元を学習するに当たり、「九州地方には、なぜ、人の多く集まる所と少ない所があるのだろうか。」という追究課題のもと、「都市圏」、「火山と温泉」、「離島」の3つの視点で考察してきた。その中で、福岡市を中心とする九州北部は本州や東アジアへも距離的に近く、過密化・都市化が進み人口が集中していること、島原など火山がある地域では噴火などの被災に遭いながらも温泉を活用していること、離島では過疎化の対策として豊かな観光資源を活用しようとしていることなどを学んできた。

生徒は、大単元「世界から見た日本のすがた」において、過密・過疎地域の現状や少子高齢化社会、台風や噴火などの自然災害と人々の暮らしなどについて学習してきた。事前のアンケート結果によると、九州新幹線の開通が与える影響について、「九州各都市との時間距離が短くなり、便利になった」、「観光客が増加し地域活性化に結び付いている」と答えた生徒が29名（73%）、桜島で暮らす人々の生活の様子については、「降灰対策が大変である」と答えた生徒が38名（95%）、「桜島大根など特産品の生産がさかん」と答えた生徒が30名（75%）いた。また、奄美大島などの県内の離島については、「交通で不便な面がある」と答えた生徒が35名（86%）、「過疎化が進み、市町村合併が行われた」と答えた生徒が10名（25%）いた。九州新幹線が鹿児島県に与える恩恵や桜島での人々の生活、離島で進む過疎化や交通の現状については説明できていたが、そのために、どのように自分たちが取り組んでいけばよいかという面から、具体的な事例を挙げながら説明できる生徒はほとんどいなかった。これらのことから、身近な地域としての鹿児島県に見られる現状や課題については理解できているものの、その課題に対してどのように解決していけばよいか、自分たちに何ができるかといった社会参画の面から鹿児島県を見つめることができていないことが分かった。

指導に当たっては、これまで学習したことを基に、パフォーマンス課題である「鹿児島に人を集めるにはどうすればよいのだろう」に取り組ませる。具体的には、(1)「鹿児島市を都市圏の中心市として魅力を高めて、人を集める」、(2)「鹿児島県内の火山と温泉の魅力をアピールして、人を集める」、(3)「鹿児島県内の様々な特色ある離島の魅力をアピールして、人を集める」の3つの選択肢のいずれかを優先的に取り組むかについて、価値分析・意思決定させ、表現（提案）させる活動に取り組ませる。その際、身近な地域である鹿児島県の特色と課題を見つめさせ、その解決策を考えさせることで、鹿児島県で生きる一員として地域に向き合う社会参画の意識を高めさせていくことにした。また、ワークシートを用いて、生徒がこれまでに習得・活用してきた

「知」を可視化させ、単元の学習内容全体の関連性をとらえ直させることで、より合理的な意志決定につなげることができると考えた。

(3) 本時の目標

ア 九州地方の人口や都市・村落や、人々の生活や産業の特色について、様々な資料から読み取らせ、ワークシートまとめさせる。（資料活用の技能）

イ 九州地方の人口や都市・村落と、人々の生活や産業に関する様々な資料を基に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。（思考・判断・表現）

(4) 研究に関する指導の手だて

【教科論 6-(1)-ア 「社会参画」を意識したパフォーマンス課題の設定の工夫】

パフォーマンス課題を設定する際に、「社会参画」を意識し、価値分析・意思決定・表現（提案）する場面を設定することで、問題の解決を図る力をはぐくませる。

【教科論 6-(2) 習得・活用した「知」を可視化するための工夫】

習得・活用してきた「知」の可視化を図るワークシートを作成することで、価値分析・意思決定・表現（提案）する場面において、習得・活用してきた「知」を効果的に用いさせる。

(5) 本時の展開 (6/6)

主な発問や指示	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<問題把握> ○ 前時までにまとめた自己の主張を振り返ってみよう。	5分	1 自己の主張を確認する。 2 学習課題を設定する。	1 前時でワークシートにまとめた自己の主張に対する根拠や論拠を確認させる。 2 各自のワークシートを振りかえらせながら、学習課題を設定する。 【教科論6-(1)-ア】	ワークシート 前時までのワークシート
鹿児島に人を集めるにはどうすればよいのだろう。				
<本質究明> ○ 鹿児島に人を集めるにはどのようにしたらよいのだろうか。	10分	3 グループで自己の主張をお互いに提案する。	3 前時までに作成した「知」の可視化を図るワークシートを利用して、意思決定した自己の主張を、根拠と論拠を明らかにしながら提案させる。 【教科論6-(2)】	ワークシート 鹿児島の資料
				ワークシート 「知」の可視化を図るワークシート
○ 自己の主張を提案しよう。	20分	4 全体で自己の主張を提案し、意見交換を行う。	4 自己の主張に対しての資料(根拠)や論拠を明確にさせながら、提案させる。また、お互いに意見交換をさせながら、さらに議論を深めさせる。	
○ 自己の主張を練り上げてみよう。	10分	5 自己の主張の練り上げをする。	5 他者の意見を留保条件として取り入れさせながら、鹿児島の将来についての合理的な意志決定をし、自己の考えを表現させる。	
<洞 察> ○ 九州地方についてまとめてみよう。	5分	6 九州地方について、まとめる。	6 九州地方について、産業や他地域と結び付きなど関連付けてまとめる。	

□ は評価場面,

○ は授業中における評価観点,

⋯ は授業後における評価観点